



不思議な
メガネ屋

五華内しびよ

目次

奥付	
奥付	8

もしも、当店のメガネに興味（きょうみ）がお有りでしたら、どうぞくにじのまち商店街へお越（こ）してください。

どんな希望もお応（こた）えできるよう、様々なメガネを、ご用意してお待ちしております。

それでは——ごぞんじ無い方のために、当店までの道のりをご案内しましょう。

JR 雨上駅の西口から、七色のアーケードをくぐり、<にじのまち商店街>を、まずはお進みください。

右にハンコ屋さんがあって、左は CD ショップ。その向こうには、たくさんの自動販売機（じどうはんばいき）が賑（にぎ）やかに並（なら）ぶ、酒屋さんが軒（のき）を連（つら）ねます。

そうそう、この店先を過ぎれば、テレビで紹介（しょうかい）されたことのある猫カフェが、洋服屋さんの2階にありました。

お店の名前は、「101匹猫ちゃん」。聞き覚えのある方もおられるでしょう。

そのうち、道路が横切る場所まで来れば、そこを右へとお入りください。向かい合わせでトルコ料理とギリシャ料理のお店があるので、行けば直ぐに分かります。

もしも、美味（おい）しい匂（にお）いに誘（さそ）われても、ここはぐっところまでお進みください。

ネイルサロンに 100 円ショップ。それから——

不思議（ふしぎ）な音色（ねいろ）の音楽に、アロマが漂（ただよ）う占（うらな）い小屋をすぎれば、3軒先（さんげんさき）には、スイス人が<代貸し（だいがし）>をする植木屋（うえきや）さんが事務所をかまえます。

かどに、りっぱな<ちょうちん>がぶらさげられていますから、目印（めじるし）として、ぜひ覚（おぼ）えておいてください。

ここまで来れば、あともう少し。

植木屋（うえきや）さんでいったん軒（のき）は途切（とぎ）れて、そこに、裏（うら）の路地（ろじ）へつながる、細い下り坂が現れます。

坂のいちばん向こうで、こちらを向いて建っているのが当店ですから。

店の名前は、<人生のふしめがね>。

ここで仕事を始めて、50年が経（た）ちました。
店もずいぶん年を取り、あっ——そうでした！
かべにかかげた店の名が、だんだんところどころで無くなって、今では<生の>とく
しめ>しか有りませんので、あしからず。
新鮮（しんせん）な生（なま）の料理が味わえるかと、たずねて来られた方にはもう
しわけありません。

何はともあれ、毎日を思い悩んでお過ごしの方へ。是非（ぜひ）、明るい人生の節目
（ふしめ）が迎（むか）えられますよう、当店のメガネをお役立てください。

「いらっしやいませ！」

今日初めてのお客様。若い男女のお二人です。
ドアから顔をのぞかせて、店中なん度も見回したあと、やっと入店いただきました。
まっすぐに、私が待つカウンターへ来られた後は、男性のほうが、並べたメガネを食
い入るようにながめています。

「なんかさー、ここあやしくね？」
後ろの女性が、店中聞こえる声でおっしゃいました。

「静かにしてろ！」
いえいえ、私が怒鳴（どな）ったものではありません。

「ちょっと。真面目（まじめ）に暮らしてみようかと……」
カウンターをのぞいたまま、男性がつぶやくようにおっしゃいました。

「それは、ごもっともなこと！」
気持ちが入り、私もつい大声を……

何かいけなかったのでしょうか。男性の目玉がじろりとこちらを向いて、急に嫌（いや）
なムードがしてきます。

「だったら、このマジメガネでいいんじゃないね？」

そんな空気を知ってか知らでか、店のメガネを指しながら外まで聞こえるような大声で、お連れの女性がおっしゃいました。これは、まさにグッドタイミング。

「いえいえ、マジメガネはまだ似合わないかと。それより先に、何ごとも控（ひか）えめでいられるこちらのヒカエメガネをお試（ため）しになるか、あるいはお顔の印象（いんしょう）を優（やさ）しく見せる、タレメガネをまずはいかがでしょう」

人の心をそう簡単（かんたん）に変えることはできません。急に真面目（まじめ）でいられるかといえば、それは無理というもの。

「時間をかけて、じょじょにメガネも変えて行くのです」

「タレ……メガネ？」

気の変わらぬうち、さっそく取り出して、試（ため）しにかけてさしあげました。
鏡の前でたしかめるお客様。すかさず「お似合いですよ」とゴマをすります。
すると、なんということでしょう！ 後ろから、お連れの女性がのぞきこみ、今日一番の大声で――

「ウケルー！」

あとは何を言ってもムダ。
「短気（たんぎ）を起（お）こさず、しんぼう強くお試してください」
そう念（ねん）を押（お）すのがやっと。
結局、マジメガネをお持ち帰りになりました。

「あの一、すみません」

二日前、アキラメガネをお渡ししたお客様です。修理（しゅうり）のために来店されました。

「昨夜（ゆうべ）ころんで壊（こわ）しちゃいました」
「お気の毒（どく）に。具合（ぐあい）はその後いかがですか」
「おでこの、ここをすりむきました」
「心の傷（きず）のほうはどうでしょう」

好きな人にふられたと、泣（な）きながらおこしいただいたのが最初。少しでも早く心の痛（いた）みがいえるようにと、アキラメガネをお選びしました。

「まだちょっと。忘れることができません」
「でしたらさっそくお直ししますから」
工具（こうぐ）を手に、もとどおり直してさしあげました。

「そちらのお客様、何かお困（こま）りでしょうか」
もじもじそわそわ、いくらたってもお呼びいただけないものですから。

「引っこみ思案（じあん）なんです。うまく自分を伝えられなくて……」
「なるほど。それではこちらへどうぞ」

試（ため）しに、三本のメガネをご用意しました。

「最初に――これはいかがでしょう？」
「えーと。何も変わり無いようです」
「では、こちらは？」
「景色（けしき）がゆがんで、なんだか目が回りそう」
「それでは真ん中の、このメガネに決めましょう」

選んだメガネは、ニホマエニススメガネ。一歩でも三歩でもなく、二歩がお客様にはピッタリでした。今より勇気（ゆうき）や自信もわいて、積極的（せっきよくてき）にふるまうことができるでしょう。

「ただし、なれるまでドアに鼻（はな）をぶつかけたり、前をゆく人の、かかとをふんづけたりしないようご注意ください。それでは、お気をつけて」

「おや？」

マドから見えたのは、植木屋（うえきや）さんの前に集まる人ばかり。

——あっ今——

一番大きな男は、シュピリさんがお気に入りの〈ちょうちん〉に回しげりして……なんてひどい。

二つにやぶけて、まるで〈ちょうちんお化け〉です。

ちょっと待ってください。遠くもどこも見渡せる、ウノメタカノメガネをかけますから。

……なんとまあ。一番大きな男は、本日来店されたマジメガネのお客さま。メガネはかけずにそのかわり、真っ赤な顔が鬼（おに）のようです。

1、2、3、4、他に4人のお仲間（なかま）がいて、全員（ぜんいん）こちらへやって来るではありませんか！

あっ。それに、もう1人……

〈ちょうちんお化け〉の後ろから、スマートフォンを手にした女性。撮影（さつえい）しながらついて来るのは、大きな声のあの方に間違（まちが）いありません。

どうあれおおよそさっしはつきます。物事（ものごと）がうまく行かない時でも、八（や）つ当たりをしてはいけません。

それなら、こちらもだまっちはいられない。思い通りにさせませんから。

今すぐ店の外へ行き、力づくで——

「店のシャッターを下ろしてきます！」

暴力反対（ぼうりょくはんたい）。やれやれこういう事もたまには有ります。恐（おそ）れ入りますが、ご用の方は明日またおこしてください。

(Sorry WE'RE CLOSED)

奥付

奥付

不思議なメガネ屋

著者：しびよ

著者プロフィール：

感想はこちらのコメントへ

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/102019>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

不思議なメガネ屋

著 しびよ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
